

AMDA 神女クラブ活動報告



ネパール研修 2026年2月7日～15日

ネパール研修に参加して

河野 心優

今回のネパール研修では、日本とは異なる医療や生活の現状を自分の目で見て、体感することができました。AMDA ネパール子ども病院の見学では、病院見学と帝王切開の手術も見学させていただきました。看護師は主に診療の補助を担い、生活面での世話を多くを家族が担っていました。病院食や寝具も家族が準備する必要があり、患者本人だけでなく家族の負担も大きいと感じました。さらに帝王切開後の入院が約二日と非常に短い点など、日本との医療体制の違いを実感しました。また、病院は物資が極端に不足しているわけではなく、自分が持っていた先入観に気づき考えを改める機会にもなりました。病院見学や医療スタッフの方の話を通じて、医療体制は単に設備の問題だけでなく、国の社会状況や文化的背景と密接に関係していることを学びました。

現地の看護学生との交流では、学生同士の仲間意識が非常に強いことが印象に残りました。十八歳から三十代まで幅広い年齢の学生が共に学び、入学当初からチームワークの重要性を繰り返し学んでいると伺いました。互いに声を掛け合いながら協力する姿から、看護実践においてもチームで支え合う姿勢が重視されていることを実感しました。個人で努力する意識が強い自分の環境を振り返り、仲間を大切にすることを今後生かしたいと感じました。

さらに、保健師の方の自宅にホームステイもさせていただき、現地の方の暮らしを実際に体験し、言葉が十分に通じなくても、ネットでの翻訳を用いて積極的に関わろうとしてくださる温かさに触れました。

今回の訪問を通して、ネパールでは医療や教育の整備が進みつつある一方で、地域格差や人材・資金面での課題も残されている現状を知りました。この研修での経験を今後の看護に生かしていきたいです。



ネパール研修に参加して

木村 花奈

舗装の行き届かない道路やレンガ造りの建物、色鮮やかな衣装、露店が並ぶ街並みが視界いっぱいに広がっていました。絶え間なく鳴り響くクラクションや人々の声、犬の鳴き声が重なり合い、空気にはスパイスや土ぼり、排気ガスの匂いが漂っていました。街全体が独特の香りと活気に包まれ、まさに異国の地にいることを強く実感しました。こうした五感を通した直接的な体験は、この土地で営まれている人々の暮らしをより確かなものとして感じました。約1週間の研修で、私はネパールのさまざまなものを見て、触れて、感じる事ができました。そこには魅力的だと感じる部分があれば、戸惑いを覚える場面もあり、多くの刺激を受ける日々でした。その中で、私の心を最も大きく動かしたのは、ネパールの人々の人間性です。どんな時も笑顔を決やらず、誰に対しても分け隔てなく接し、常に相手を気遣い、喜んでほしい、楽しんでほしいという思いが自然と行動に表れていました。また、言葉が十分に通じない場面でも嫌な顔ひとつせず、簡単な英語やジェスチャーを使って懸命に伝えようとしてくれました。その姿勢からは、相手を理解しようとする真摯な気



AMDA 兵庫だより



2025.4～2026.3 Vol.13

令和7年度総会および

風に立つライオン オブ・ザ・イヤー 2024 柴田紘一郎賞受賞記念講演会 理事長 江口 貴博

2025年5月11日午後3時から、神戸元町のまちづくり会館にて、令和7年度AMDA兵庫総会が行われました。昨年度の活動報告、決算報告とともに、風に立つライオン オブ・ザ・イヤー 2024 柴田紘一郎賞受賞の報告がありました。また、今年度の事業計画として、南海トラフ地震対応の防災訓練や来年2月予定の中川副理事長とAMDA神女クラブ数名によるAMDAネパール子ども病院訪問事業などが承認されました。

その後、受賞講演会に先立ち、医療通訳研究会の村松代表から、医療通訳者を取り巻く現状と今年秋からの医療通訳分野でのプラットフォーム構想などについて報告を頂きました。また、いつもAMDA兵庫の防災山キャンプでお世話になっている「播磨路芸術の夢」関口オーナーから、映画シアターを備えた「サロン・ジジババ」の立ち上げや、今年度の開発予定などについても報告がありました。

午後4時から、風に立つライオン オブ・ザ・イヤー 2024 柴田紘一郎賞受賞記念講演として、AMDA兵庫の初代代表である、連利博先生に鹿児島からお越し頂き、AMDAネパール子ども病院設立の経緯や、小児外科部門の立ち上げ、手術および人材育成などについてお話頂きました。AMDA兵庫初期のことを知らなかった新しいAMDA兵庫メンバーや、5名参加してくれていたAMDA神女クラブのメンバーにとっては新鮮な内容に、一同熱心に講演を聞いていました。さらにAMDA兵庫の初期活動の3本柱であった、医療通訳者の養成やその後の連先生の医療通訳関連の学会立ち上げ活動などの話とともに、病気で長期入院している子ども達のメンタル事業「日本クリニックラウン協会」の現状や将来展望などについても話が及びました。月日を重ねてもなお情熱を失わないその姿は、AMDA兵庫の新しい世代にとっても大きな刺激になったと思います。

今年度、AMDA兵庫は風に立つライオン オブ・ザ・イヤー受賞をきっかけに、次世代へのバトンタッチとして、若手の育成事業や南海トラフ対応など、将来への新たな歩みを始めます。今後ともご支援下さいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



南海トラフ津波災害に対する徳島県と阿南市との合同防災訓練に参加して 理事長 江口 貴博

2025年10月26日（日）、徳島県阿南市羽ノ浦スポーツセンターで行われた徳島県と阿南市との合同防災訓練に参加しました。今回はホテルでの前泊ではなく、前日仕事後の夜に徳島に向かい簡易宿泊で明朝現地入りしたところ、すでに多くの住民たちが受付を済ましていて、早速避難所の設営訓練を始めていました。訓練には数年前から自衛隊や国土交通省、通信事業者や防災グッズを扱う企業なども多くのブースを作っていて、毎年内容も濃くなり、訓練の内容もコロナ対応やペット対応、障害者対応など、新しいテーマを見つけて進化していることが伺えました。阿南市の岩浅市長も医療救護班を訪ねて下さり、発災時の医療対応について今後も共に協力して行く方向を確認しました。

医療救護班も、前回までは学校の保健室などを利用して設営していましたが、今年はエアータントを設営して、屋外の仮設場所での初めての活動でした。今回も阿南医師会から二人の開業医の先生も参加されました。正午前からトリアージの実践と赤タグの重傷者に対する救急医療のデモンストレーションを行いました。諏訪中央病院からの医療チームは、AMDA南海トラフ災害対応プラットフォームの協力医療機関で、長野県から参加されていますが、素晴らしい統率力で、本番さながらの迫真の演技で急性期ABC治療の実演をしました。江口はデモンストレーションの解説を、ホウエツ病院の林先生からは包括の訓辞があり、住民の方々も真剣な眼差しで話を聞いていて、拍手の中で医療救護班の訓練を終えることができました。実際の発災時は、医療救護に関わる医師や看護師、調整員たちの負担軽減のため、ホテルが無理であればキャンピングカーのレンタルなども考えないといけないと思いました。

次回も、次の新たなテーマを持って訓練に参加したいと思います。今後ともご協力をどうぞよろしくお願い致します。



第7回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム連携会議 中川 卯衣

令和7年10月20日に岡山国際会議場にて、第7回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム連携会議が5年ぶりに開催されました。以前から、もし南海トラフ地震が起こったらと想定し、AMDAは主に徳島県と高知県の各地域と災害連携協定を結んでいます。そして、AMDA兵庫は長野県にある諏訪中央病院とともに徳島県阿南市を担当することになり、防災訓練などをともにを行っています。このように、今までもそれぞれの地域と医療機関は個別の関係を築いてきています。

今回の会議では、岡山県、徳島県、高知県の危機管理室・防災課、有事に拠点となる医療関係者、協力企業や教育機関から約150人が一堂に会しました。そして、「調整から連携へ」をテーマに、各地域の防災面の強化や最新情報を共有しました。また、東日本大震災以後15年目の大槌健康サポートセンターの取り組みや、協力の提供を約束してくれている企業やDMAT事務局より災害対応についての特別講演がありました。

今回は、今までの経験を踏まえ、「平時での顔の見える関係を積み重ねることが災害時の連携をよりスムーズにする」ということを出席者で確認しました。そして、より現実に即した、具体的で実行可能な連携体制の推進をこれからも行っていく気持ちを共に新たにしました。

兵庫県災害救急医療システム運営協議会 桂木 聡子

令和8年2月4日、兵庫県災害医療センターを訪問し、兵庫県災害救急医療システム運営協議会に参加しました。協議事項は、兵庫県災害救急医療システム運営協議会設置要綱の修正が行われ認められました。その後、各部会や関連団体から報告があり、課題や要望等が出されました。福祉に関する要望や、搬送なども必要になると思うので、EMISのような情報を共有できるデバイスやアイテムがあることが望ましいのではないかと提案してみました。(EMISに引付けると情報が煩雑になり見にくい)全体に報告だけでは面白くなかったがその後の自由意見でそれぞれの報告に関する活発な発言もありとても面白い会でした。また、それぞれの部会が行っている研修会や災害訓練などは手弁当のことが多く、兵庫県に予算配備をお願いするということもされていました。

神戸市薬剤師会訪問 中川 卯衣

8月21日に神戸市薬剤師協会の安田理恵子会長を訪問しました。

神戸市薬剤師協会は長年にわたり神戸市下の調剤薬局でAMDA兵庫のために募金活動をして下さっています。毎年、その寄付金を頂きに上がり、AMDA兵庫の活動のご報告をしています。今年は、いただいた寄付金をネパールこども病院付属の看護学校建設費用の一部に充てたことをご報告し、今後も変わらぬご協力をお願いをしました。



= AMDA 兵庫活動記録【2025年4月1日～2026年3月31日】 =

2025年7月26日～27日	第24回防災山キャンプ 備蓄倉庫の視察(江口、島田、関口、AMDA神女クラブ)
2025年8月21日	神戸市薬剤師会 活動報告・寄付金御礼(中川)
2025年8月23日～24日	第5回防災海キャンプ コットを使った防災訓練(島田、AMDA神女クラブ)
2025年10月20日	第7回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム連携会議 (中川、AMDA神女クラブ)
2025年10月26日	阿南市防災訓練 羽ノ浦スポーツセンター(江口、島田)
2025年11月15日～16日	第25回防災山キャンプ サロン・ジジババにて来年の計画(江口、島田、関口)
2025年12月12日	風に立つライオン基金10周年式典(中川)
2026年2月4日	第1回兵庫県災害救急医療システム運営協議会 兵庫県災害医療センター(桂木)
2026年2月7日～15日	AMDA兵庫・AMDA神女クラブ ネパール研修(AMDA神女クラブ)

= ご寄付(敬称略)【2025年4月1日～2026年3月31日】 =

藍の都脳神経外科病院、江島谷昌子、川上茂、神戸市薬剤師会、小林芙蓉後援会、豊中脳神経外科クリニック、林田昌子
水の都記念病院、AMDA、AMDA社会開発機構、AMDA神女クラブ (五十音順)

	AMDA 兵庫	定例会 随時、開催します。
	〒659-0032	HPに掲載しますので、ご覧ください。
	兵庫県芦屋市浜風町10-1	発効日：2026年4月
	E-mail: info@amda-hyogo.com HP: http://amda-hyogo.com	

持ちが強く伝わってきました。そこには、日本人と共通する思いやりの心も感じられました。しかし、ネパールの方々はその思いやりをより率直に、そして誰に対しても変わらず表現しているように思えました。日本人にも優しさや思いやりは確かにありますが、それを控えめに示す文化の中で育ってきた私にとって、その率直な優しさの表現は非常に新鮮でした。そして、「思いやりは心に留めるだけでなく、相手に伝えてこそ意味を持つのではないかと改めて考えさせられました。何気ない関わりの一つひとつが私を温かい気持ちにし、その感覚は今でも鮮明に心に残っています。この経験は、今後看護に携わる上で、人との関わりの基盤となる大切な学びです。看護の現場では、患者や家族が不安や孤独を抱える場面も少なくありません。そのような時こそ、相手の立場に立ち、思いやりを言葉や態度で示す姿勢が重要であると感じました。相手を思いやる気持ちを心に留めるだけでなく、確実に伝えることのできる看護師になりたいと強く思います。今回の研修は、私に新たな視点と価値観を与えてくれた、かけがえのない経験となりました。



ネパール研修を通して学んだこと

今回私はネパールでの研修を通して、人々の価値観や教育体制、医療現場の実際について学びました。日本とは文化や生活環境が大きく異なり、現地で生活し人々と関わる中で、多くの気づきを得ることができました。

ネパールの人々は自分の意思をはっきりと伝える姿勢を持っていました。最初は戸惑いもありましたが、それは自己中心的なのではなく、互いを受け入れる文化があるからこそ成り立っているのだと感じました。相手を否定せず、状況を理解する姿勢があるため、人前でも堂々と行動できるのではないかと考えました。この経験から、私自身も他者を評価する前に理解しようとする姿勢を持つことの大切さを学びました。

また、英語の重要性も強く実感しました。ネパールでは多くの人が英語を話しており、十分に話せない自分の力不足を感じました。将来国際的に活動するためには語学力が不可欠であると痛感し、今後継続して学習する必要があると感じています。

教育面では、学べるのが当たり前ではない環境の中で、学ぶ意欲の高い人が多いことが印象的でした。日本の恵まれた教育環境に改めて感謝し、その環境を生かして努力する責任があると感じました。

病院見学では、日本との医療環境の違いに驚きました。手術室では布製のガウンやドレープが再利用され、救急病棟では多くのベッドが同じ空間に並んでいました。感染対策も日本ほど徹底されているわけではありませんでしたが、大規模な院内感染が頻発しているわけではないと伺い、日常的にさまざまな感染症に触れる中で、ある程度の免疫を持っている可能性もあるのではないかと考えました。また、病室が大部屋であることに対して現地の人々は違和感を抱いていない様子で、大家族で生活するという文化背景は影響しているということを知り、そのような文化背景や価値観に合わせた医療を行うことが重要だと学ぶことができました。

今回の研修を通して、医療や教育は制度だけでなく、経済状況や文化、生活背景と深く関わっていることを学びました。この経験を今後の学びや将来の目標につなげていきたいと考えています。



学生3人とAMDA本部のあるちやなさんとネパール研修に参加しました。この研修では、異なる文化や価値観の中での医療や人との関わりを考える貴重な機会となりました。現地での経験を通して得た気づきや学びを大切に、今後の学習や看護実践に生かしていきたいと考えています。